

# 平成24年度 社会厚生常任委員会 行政視察報告書

平成24年11月22日

- 1 日 程 平成24年10月16日(火)～18日(木)
- 2 視察先等 愛知県日進市 人口 84,317人(4月1日現在)  
面積 34.90km<sup>2</sup>  
議員定数 条例数20人 現員数20人  
奈良県天理市 人口 67,888人(4月1日現在)  
面積 86.37km<sup>2</sup>  
議員定数 条例数18人 現員数18人
- 3 視察事項 ・障害者総合支援について (日進市)  
・高齢者福祉施策全般について (天理市)
- 4 視 察 者 一行8名  
委員会 保坂 裕一 委員長 山田 義栄 副委員長  
浅野 一明 委員 亀山 重光 委員  
茂岡明与司 委員 関 龍雄 委員  
当 局 和田 正利 福祉事務所次長  
随 行 美原 弘美 議会事務局主査

## ●日進市の概要

愛知県の中央部に位置し、西に名古屋市、東は豊田市・みよし市に、北は長久手市、南は東郷町に接する。大都市近郊ながら、なだらかな丘陵地を形成する市全体には自然環境が残ることから、高度成長期以降、名古屋都市圏の拡大に伴い宅地化開発が進んだ。

大学(5)・短大(1)・高校(3)も数多く立地する学園都市でもある。

- ・特別養護老人ホーム 2カ所 総定員数：150人
- ・高齢者向けグループホーム 4カ所 総定員数：54人
- ・高齢化率：17.1% ・介護保険料 4,370円

## ●視察の概要

### ◎日進市障害者福祉センター 視察

日進市障害者福祉センターは相談支援を軸として、障害を持つ方のライフステージを通じ、一貫した支援を展開する拠点として整備を進め、障害を持つ方を支援する「地域生活支援センター」(通称：たけのやま)と発達が気になる子どもを支援する「子ども発達支援センター」(通称：すくすく園)の二つの機能を備える複合施設として本年4月1日に開所した。

### 【施設の特徴】

#### ◆地域生活支援センター

- ・障害福祉サービスなどの利用に関する相談を行う。
- ・子どもの発達支援や障害者福祉などに関わる人材育成の講座などを開催する。
- ・成年後見制度に関する相談支援を行う。

#### ◆子ども発達支援センター

- ・子どもの発達や障害などに関する相談支援。
- ・障害や発達が気になる子どもへ療育支援を行う。
- ・保育所、幼稚園、学校などの集団生活に適應できるよう訪問指導を行う。

## 【施設のコネプト】

### ◆明るく立ち寄りやすい施設

- ・交流スペースや会議室など、利用者が自由に使える空間の外壁にガラスを用いることで、光を取り入れた開放的な空間づくりに努めている。

### ◆使いやすい施設

- ・交流スペースと会議室の境は、可動式の間仕切りとなっており、一体的な利用も可能となっている。

### ◆優しく守られた施設

- ・子どもたちが屋外活動で使用する園庭を建物で囲み、道路や駐車場と分離することで安全性の確保に努めている。
- ・各療育室の出入り口を、園庭に向けることで見渡しやすくすると共に、事務室・職員室を建物の中心に配置して施設管理がしやすい構造になっている。

## 【施設の概要】

施設名称	日進市障害福祉センター
設置主体	日進市
敷地面積	3, 324. 71 m <sup>2</sup>
延床面積	995. 1 m <sup>2</sup>
構造	木造平屋建
総工費	226, 548, 000円（社会資本整備事業補助金を利用）
起工	平成23年6月28日
竣工	平成24年3月23日
開所	平成24年4月 1日
運営主体	社会福祉法人 日進市社会福祉協議会（指定管理）
駐車場	37台

## 【当面の課題と今後の方向性】

### 1 地域包括ケアシステムへの取り組み

見守り・発見機能、問題解決機能、問題提起・課題共有機能を、明確に位置づけた地域福祉の仕組みづくり

### 2 権利擁護センターに向けた取り組み

高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉などの枠組みにとらわれないトータルサポートの仕組みづくり

### 3 障害者福祉センターの機能充実

たけのやま→人材育成・当事者活動支援などの充実  
すくすく園→安定した運営体制

## 【所感】

・発達の遅れや身体の不自由な子供たち、一人ひとりの状況に合わせての支援を行う「すくすく園」と18歳以上の障害者への相談支援事業を行う「たけのやま」の2つの施設が連携し、ライフステージを通して一貫した支援が可能となる施設であること。

また障害を持つ方とその家族にとってもワンストップでの相談体制を整えた施設となっており、日進市の障害者福祉の支援基地との印象を持ち参考になった。

## ●天理市の概要

阪神圏30kmにあつて、奈良県北部の奈良盆地の中央に位置する。市の中心部には天理教本部が置かれ日本で唯一宗教団体の名称が市名となっている。天理大学をはじめ天理教関係の建物が建ち並ぶ国際的な宗教都市。日本一古墳の多い歴史的に古い市である一方で、大阪、京都のベットタウンの一面もある。

- ・特別養護老人ホーム 5カ所 総定員数：318人
- ・高齢者向けグループホーム 3カ所 総定員数：45人
- ・高齢化率：20.8%
- ・介護保険料 4,720円/月

## ●視察の概要

### 【高齢者在宅福祉サービス】

- ・緊急通報装置の設置  
→緊急性の持病（心臓病、脳血管疾患等）を持つひとり暮らし高齢者を対象に、体の異常を感じたときに使用し、事業所（委託先）へ緊急通報が発信される。  
また、状況により協力員、または消防署へ連絡する。
- ・要介護高齢者への紙おむつ等の支給  
→要介護3、4、又は5に認定された在宅の高齢者に紙おむつ等を無料支給する。
- ・訪問理美容サービス  
→理美容店に行くことが困難な高齢者を対象に、自宅で理髪を受けることができる利用券を発行する。（最大年4回分）
- ・日常生活用具（火災警報器）の給付  
→防火等の配慮が必要な認知症に認定されたひとり暮らし高齢者に火災警報機を給付する。（台所のみ設置）
- ・ひとり暮らし高齢者乳酸菌飲料（ヤクルト）の配布  
→ひとり暮らし高齢者に乳酸菌飲料を配布し、声掛けをすることにより、孤独感の解消、及び安否の確認をする。
- ・徘徊高齢者家族支援サービス事業  
→早期に位置情報を発見できる装置を貸与し、認知症高齢者が徘徊したときに活用して、その居場所を家族に伝える。
- ・寝具洗濯乾燥消毒サービス  
→寝具の衛生管理が困難な高齢者を対象に寝具の洗濯乾燥消毒サービスを受けることができる利用券を発行する。（最大年2回分）
- ・「食」の自立支援事業  
→食事の調理が困難なひとり暮らし及び高齢者世帯に、定期的に食事を提供し、食生活の改善を図るとともに安否の確認を行う。
- ・生きがい活動支援通所事業  
→家に閉じこもりがちなひとり暮らし高齢者等の孤独感の解消、及び介護予防のためのデイサービスを行う。
- ・高齢者電話機設置支援事業  
→ひとり暮らし高齢者に電話機の設置について支援する。  
（初期の設置費を市が負担 基本料金、通話料等は自己負担）
- ・軽度生活援助事業  
→ひとり暮らしや高齢者世帯に居室の清掃、草刈等の軽易な日常生活上の援助を行う。  
（要支援・要介護の人は介護サービスと重複する内容のものは利用できない）

### 【安心生活創造事業】H21年度～

◎厚生労働省が選定する地域福祉推進市町村が実施するモデル事業で、この事業では、「悲惨な孤独死、虐待などを1例も発生させない地域づくり」を目指している。各地域福祉推進市町村は、この事業の「3つの原則」に基づいた取組みを行う。例えば一人暮らしや夫婦のみで暮らす高齢者や障害をお持ちの方の世帯などであっても、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援する。(国庫100%補助)

- ◆ふれあいサロンの設置(市内各ゾーンに3ヵ所)
- ◆事業の担い手となる人材の育成
  - ・生活介護支援サポーター養成事業
  - ・生活介護支援サポーター研修会の開催
- ◆基盤支援を必要とする人々のニーズ調査
- ◆買い物支援
- ◆病院・クリニック等付き添い支援
- ◆救急医療情報キットの配布

### 【その他】

- ◆地域の居場所づくり事業(奈良県の補助事業 H23～24年度)
- ◆天理市災害時要援護者避難支援計画(H23年5月)

### 【所感】

・高齢化が急速に進行する中、様々な生活課題が顕在化してきている。加茂市においても今後はひとり暮らし高齢者、高齢者のみの世帯等では「買い物支援」や「病院等への付き添い支援」が必要になってくるのではないかと感じている。県立加茂病院の改築やそれを含めた救命救急センター併設の基幹病院が実現すれば、通院するための交通手段に困ったり、広い院内の移動に支援が必要な方、更に受付、予約、会計などはコンピューター化が予想されるが、それらの操作等に支援を必要とする高齢者も出てくる可能性がある。それらに備えての生活支援サポーターを養成することは検討する必要があるのではないかと感じた。

